

氏名	砂 山 有 生		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 5 6 5 号		
学位授与の日付	昭和48年 6 月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	子宮頸癌放射線療法に於ける直腸障害並びに直腸線量測定に関する研究		
論文審査委員	教授 山本道夫	教授 田中早苗	教授 砂田輝武

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

子宮頸癌放射線治療の際にみられる副作用である直腸障害について、頸癌患者377例を対象として障害を引き起すと考えられる臨床情報をコンピューター処理して直腸障害の実態及び原因を追求した。その上直腸線量測定時の被曝量を減少させる目的をもってT・A・O式 After-loading 法を利用して新しい直腸線量測定法の開発を試みた。その結果直腸障害発生頻度は早期38.5%，晚期40.5%であり直腸線量の増加は Tandem 線量の増加によることが多いこと、直腸線量の増加により直腸障害は増加するが直腸線量が少なくても Tandem, Ovoid 線量の多いものでは直腸障害発生率が高いことを知った。一方直腸線量測定に関して考案した新しい方法とは、ビニール被覆鉛線を肛門より挿入してX線写真をとりT・A・O式チャートで計算する方法であるが、この方法は簡便で線量測定時の被曝量を零とし更に実測値に極めて近い値を得ることができ、且つ線量計不要となる方法である。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、子宮頸癌放射線療法に於ける直腸障害並びに直腸線量測定に関するもので、直腸線量測定時の被曝量を減少させるためT・A・O式 After-loading 法を利用して新しい直腸線量測定法の開発を試みて直腸線量の増加により直腸障害は増加するが、直腸線量が少なくても Tandem Ovoid 線量の多いものでは直腸障害発生率が高いことを明らかにし、且つ本法の利用により線量計不要となる方法であることを明らかにしており、価値ある業績と認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。